

【用語】 実正—真実で間違いなこと 印形—印、印判 通帳—掛け  
買いの時に月日・金額などを記入する帳簿

【解説】 上野国は古くから養蚕・製糸・織物業が盛んな地域であった。  
このため、糸・絹などの商品輸送が活発化してくると、江戸または京  
都とを結ぶ運輸通信網が発達し、信書・金銀・小荷物の運送を業務と  
する飛脚便が江戸と関東の間では最初に設けられた。とくに享保期頃  
から西上州の特産物である生絹まゆなの生産と流通が増大してくると、高  
崎・藤岡などには絹を仕入れるため江戸や京都の大都市商人の出店や  
絹買宿ができるとともに、上州絹の輸送を請け負う飛脚屋も開店した。  
このようななかで典型的な在地の絹商人として成長してきたのが富岡  
町の阪本（坂本）家である。同家は地元ちよんの富岡はもちろん、下仁田・藤  
岡の絹市などで絹や麻を買い集め、それを京都・江戸・名古屋の絹問  
屋へ出荷していた。

この文書は、京都や江戸の飛脚問屋らが富岡町の有力絹商人であつ  
た阪本家の絹荷物などの運送を請け負ったときの証文である。なお、  
差出人のなかには藤岡笛木町の近江屋喜平次の名がみえるが、これは  
京都の飛脚問屋近江屋が藤岡の飛脚屋を取次所として掌握し、支店化  
していたものと思われる。